

陽炎5型 B 改取り扱い説明書

概要について

陽炎5型 B 改はトリガー、ボルトストップに光センサーを採用した SYSTEMA PTW 用の FCU です。

付属品について

陽炎5型 B 改 制御基板、FET 丸型基板

- 陽炎5型 B 改 制御基板 1個
- 陽炎5型 B 改 FET 丸型基板(配線ハンダ済み) 1個
1.25sq シルバーコード、1.25sq シリコンコード赤・黒
- 制御ケーブル(150mm または 300mm) 1本
- ヒューズ(35A) 1個
- 熱収縮チューブ(Φ3) 1本
- ヒューズ接続用ファストン端子 2個
- ディーンズコネクタ 1個
- 光センサー反射用 0.5mm プラ板(市販の模型用プラ板で代用できます。) 1枚

陽炎5型 B 改 制御基板単体

- 陽炎5型 B 改 制御基板 1個
- 光センサー反射用 0.5mm プラ板(市販の模型用プラ板で代用できます。) 1枚

陽炎5型 B 改 FET 丸型基板単体

- 陽炎5型 B 改 FET 丸型基板(配線ハンダ済み) 1個
1.25sq シルバーコード、1.25sq シリコンコード赤・黒
- ディーンズコネクタ 1個
- 熱収縮チューブ(Φ3) 1本
- ヒューズ接続用ファストン端子 2個

流用部品について

SYSTEMA 純正のセレクター基板を流用します。

ディーンズコネクタの注意点

コードをハンダ付けする必要があります。

付属のディーンズコネクタには極性表示があります。

(+)にシリコンコードの赤、(-)にシリコンコードの黒を接続してください。

ハンダ付けした部分が十分な結合強度があるか確認してください。

ハンダ付けした部分は熱収縮チューブで確実に絶縁してください。

モーターの接続について

FET 基板の M+に接続されているシルバーコードをモーターの+側へハンダ付けして下さい。

FET 基板の M-に接続されているシルバーコードをモーターの-側へハンダ付けして下さい。

使用可能バッテリーについて

下記のバッテリーが使用できます。

- ニッケル水素バッテリー(上限 14.4V)
- リポバッテリー(2 セル、3 セル)

光センサー用プラ板について

トリガーとボルトストップの検知は光センサーを採用しています。
下の画像のようにプラ板を接着してください。



組み込み直後のバッテリー接続について

バッファチューブの後側からバッテリーを入れる場合

組み込み直後はトリガーの初期設定が完了していないのでトリガーを引いても発砲できません。
トリガーの初期化方法(バッテリー接続毎にトリガーの初期化が行われます。)

- ① バッテリーを接続します。
- ② セレクターが SAFE (レシーバー刻印準拠) の場合は自動でトリガーが初期化します。
セレクターが SEMI または AUTO の場合は1秒間隔で短いブザーが鳴ります。
セレクターを SAFE に切り替えてください。
- ③ バッテリー設定の状態が通知されます。

テイクダウンしてバッファチューブキャップ側からバッテリーを入れる場合

- ① セレクターが SAFE (レシーバー刻印準拠) の位置のままバッテリーを接続すると、センサーに外光が入った状態で初期化され、正常に動作しなくなります。
- ② そのため、テイクダウンしてバッテリーを接続する場合はセレクターを SEMI または AUTO の位置にして行ってください。1秒間隔でブザーが鳴りますが、そのままレシーバーを閉じてください。
この時、**マガジンを入れるなどしてボルトストップを動かさないよう注意してください。**



- ③ レシーバーを完全に閉じた後、セレクターを SAFE に切り替えると初期化が行われ、正常に動作します。



ロアレシーバー単体で動作を行う場合

- ① バッテリー接続前にセレクターを SEMI または AUTO に入れ、バッテリー接続します。(1秒間隔のブザーが鳴ります。)
- ② 暗い場所またはセンサー部分を手で覆って外光が入らない状態にします。
- ③ ②の状態を保ったままセレクターを SAFE に入れて初期化します。
- ④ ②の状態を保ったままセレクターを SEMI または AUTO に入れ、動作確認を行って下さい。

※制御基板がシリンダーで押さえられていないので、この状態でプログラムモードのトリガーストローク設定を行うとテイクダウンした際に正しく作動しない恐れがあります。

セルフテストについて

バッテリーを接続すると下記項目の自動でチェックします。

- バッテリーの電圧チェック
- ボルトストップセンサーの初期化

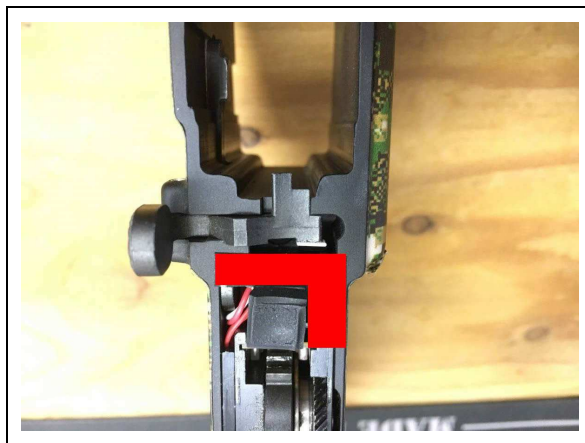
マガジンが挿入された状態でバッテリーを接続しないでください。

その他の注意点

ボルトストップセンサーの誤動作について

鏡面状態のシリンダーにセンサーの光が反射して誤認識することがあります。

画像の赤い部分のように遮光テープを貼ることでセンサーの誤認識を抑えることができます。



バッテリー接続後の初弾または数発でブザー後の動作停止について

- ① モーター駆動時の電圧降下のより、バッテリー接続後の初弾または数発で**バッテリー残量警告レベル**または**バッテリー残量停止レベル**に達してしまう場合があります。
- ② 高負荷セッティング(DSG+高レートスプリング等)で**元々容量の少ないバッテリー(サイズの小さいバッテリー)**または**残量が少なくなっている状態のバッテリー**を接続した際に起こる場合があります。

ブザーとLED点灯について

各種のエラーなどをブザーとLEDで通知します。

セルフテスト後にバッテリー設定と接続したバッテリーが合っている場合

ニッケル水素 (14.4V)	長いブザーが1回鳴ります。(———)
リポバッテリー (2セル 7.4V)	短いブザーが2回鳴ります。(・・)
リポバッテリー (3セル 11.1V)	短いブザーが3回鳴ります。(・・・)

※ニッケル水素の電圧範囲が広いのでリポバッテリーの2セル、3セルでも動作は可能ですが、バッテリー監視が適正でないため、基本プログラムモードでバッテリー設定を必ず行って下さい。

バッテリー設定よりも電圧の高いバッテリー (14.4V 以下) を接続した場合

設定と異なるバッテリー	長いブザーと短いブザーが2回鳴ります。(—・・)
-------------	--------------------------

※ブザーによる通知は行いますが、動作は可能です。ただし接続したバッテリーの方が電圧は高いのでリポセーフティは正常に作動しません。

電圧の低い状態のバッテリーを接続した場合

バッテリー残量が警告レベル以下	ブザーが10回鳴った後LED低速点滅(——— ———)
-----------------	-----------------------------

※全ての操作が無効になります。バッテリーを交換または充電して下さい。

使用可能電圧 (14.5V) を超えるバッテリーを接続した場合

使用不可電圧バッテリー	ブザーが10回鳴った後LED高速点滅(……………)
-------------	---------------------------

バッテリー設定 (基本プログラム) と合っていないバッテリーを接続した場合

設定と違うバッテリー	ブザーが10回鳴ったとLED低速点滅(——— ———)
------------	-----------------------------

基本プログラム設定の⑧バッテリー設定でご使用になるバッテリーの種類を設定して下さい。

バッテリー残量が少ない場合 (作動限界間際)

バッテリー残量が警告レベル以下	LED点滅(— — — —)をループします。
	一度だけブザー(—・・)で通知します。

※早めのバッテリーの交換または充電をお勧めします。

バッテリー残量が少ない場合 (作動限界)

バッテリー残量が停止レベル以下	ブザーが10回鳴った後LED低速点滅(——— ———)
-----------------	-----------------------------

※全ての操作が無効になります。バッテリーを交換または充電して下さい。

モーター駆動中にカットオフが未検出の場合

カットオフ未検出	モーターを停止してLED点滅(—・・)をループします。
----------	-----------------------------

※ギヤ周りの破損等による作動停止、バッテリー電圧低下、モーター焼け、モーターコネクタ接触不良でもカットオフ未検出となることがあります。

使用上の注意

ボルトストップセンサーの初期化のため、バッテリー接続時はマガジンを未挿入の状態で行ってください。

テイクダウンした状態での作動は振動による制御基板の位置ずれや外光によりトリガー、ボルトストップのセンサーが誤作動する可能性があります。

万が一、異臭など感じたら、直ちに使用を中止してバッテリーを外してください。

SYSTEMA は SYSTEMA 社の登録商標です。

PTW は SYSTEMA 社の登録商標です。

開発・製造・販売元

不知火 <http://jp-shiranui.com/>

G.A.W. <http://gaw-airsoft.shop-pro.jp/>